

ベネズエラの最新動向(9月～10月)

本レポートは、国際協力銀行ニューヨーク駐在員事務所が、ベネズエラの政治・経済・外交・資源セクター等の最新動向に着目して、現地報道などの公開情報を中心に情報収集し、取り纏めたものです。

I. 政治・経済

1. グアイド派の野党4政党のうち3政党がグアイド暫定政権の解散について検討

- 10月20日付の報道(Financial Times紙)で、グアイド暫定政権を支持してきた野党4政党のうち3政党が、グアイド暫定政権の解散について検討していることが明らかになった。これらの野党3政党は、「グアイド氏と暫定政権の継続は現実的ではない」との見解を示したとされる。
- かつては50カ国近くがグアイド氏を正統な大統領として承認していたが、グアイド氏の求心力低下に伴い、殆どの国がグアイド暫定政権を承認しなくなっており、国内外で暫定政権解散に向けた圧力が強まっている。
- 引き続きグアイド暫定政権を承認している主要国は、米国、英国、ブラジルのみであるが、バイデン政権はマドゥーロ政権との直接対話に踏み切っているほか、ブラジルでは左派勢力のルーラ氏が10月30日の大統領選挙で当選しており、グアイド暫定政権解散への圧力は一層強まっている。
- 他方、アナリストは、米国内ではマドゥーロ政権に譲歩するべきではないとの意見が根強く、現時点でバイデン政権が対ベネズエラ外交政策を転換する可能性は低いとするも、今回の野党主要3政党の決定は、与野党対話の進展や米国の対ベネズエラ制裁の緩和を促進させる可能性があると指摘。

II. 外交

1. マドゥーロ政権とバイデン政権の間で事実上の囚人交換が成立

- バイデン政権は10月1日、ベネズエラで収監されていた米国市民7人をマドゥーロ政権が解放したと発表。マドゥーロ政権も、米国で収監されていたベネズエラ人2人が解放されたことを発表しており、両国間で事実上の囚人交換が成立。
- 市民団体や米メディアによると、今回解放された米国市民7人は、PDVSAの米子会社CITGOの社員や元米海兵隊員等。米国で解放されたベネズエラ人2人は、マドゥーロ大統領の親族2人(フローレス大統領夫人の甥2人)とされる。
- 今回の囚人交換は、バイデン政権とマドゥーロ政権の間でコミュニケーションが継続していることを意味しており、両国の関係改善が続けば、米国の対ベネズエラ制裁の緩和に繋がる可能性もある。
- 他方、ルビオ米上院議員(共和党、フロリダ州選出)等は、バイデン政権の融和姿勢を強く非難。米国内ではバイデン政権の弱腰外交への批判も高まっており、マドゥーロ政権から何らかの譲歩を取り付けられない限り、バイデン政権が大胆な制裁緩和に踏み切るのは難しいとの見方もある。

III. 石油その他の資源セクター

1. 米メディア、バイデン政権がシェブロンの営業許可ライセンスの内容修正を準備中と報道

- 米メディア(WSJ紙)は10月5日、バイデン政権が、米石油大手シェブロンに与えているベネズエラでの営業許可ライセンス(対ベネズエラ制裁からの適用除外を認めるもの)の内容を修正する準備を進めていると報道。
- 12月1日に失効期限を迎える現行ライセンスでは、安全確保と資産保護を目的とした最低限の活動のみが許可され、石油掘削・精製・輸送・売買といった活動については全て禁止されているが、バイデン政権は、ベネズエラでの石油生産と輸出の一部再開を許可する意向とされる。
- バイデン政権はこれまで、制裁緩和の条件として、マドゥーロ政権に与野党対話を再開させることを要求しており、近々与野党対話が再開されることになれば、何らかの制裁緩和が期待できる。
- アナリストは、ベネズエラでは長年に亘る投資不足で石油インフラが極めて劣化しているほか、人材も不足していることから、経済制裁が緩和されても、シェブロンによる短期的な増産量は大きなものにはならないと指摘。また、シェブロンが15万~20万バレル/日を増産させるには、18~24カ月の時間を要すると予想。

2. 2022年9月のベネズエラ産油量、小幅減少=原油価格は前月(8月)から約8%下落

- OPECは10月12日に公表した石油月報で、2022年9月のベネズエラの産油量が前月比2.8%減の65.9万バレル/日だったと発表。同統計は、OPECが二次情報源(Secondary Sources)から集めた情報を元に算出したもの。
- ベネズエラ政府が自己申告した統計(Direct Communication)における2022年9月の産油量は66.6万バレル/日で前月の72.3万バレル/日から減少。ここ数カ月、産油量に大幅な増減は見られていない。
- 2022年9月のベネズエラ原油価格(Meruy)は、前月比7.9%安の73.7ドル/バレルで、OPEC加盟国平均(前月比6.5%安)のトレンドに沿った値動きをしており、世界的な経済成長とエネルギー需要の減速への懸念が高まっていることが、原油価格に反映されたと見られている。
- 2022年9月のベネズエラの石油輸出量は、衛星画像データを用いた推定によると、前月比18%増の52.9万バレル/日。輸出先については、中国が全体の95%を占めたとされ、残りはキューバ及びその他の目的地(追跡不能)に輸出された模様。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。